



このレシピ集の使い方

編者・井階友貴

本書は、認知症の教科書をめざしたものではなく、さまざまな認知症の事例（問題点）を分類し、それぞれへのケア・対応例（＝レシピ）を集め、そのなかから同様の事例にも使えるエッセンスを紡ぎ出すことを目的としています。

1章～3章 患者さん／ご家族／地域の問題に対するレシピ集

第1～3章では、患者さん、ご家族、地域における問題点ごとに事例を分類しています。読み物として通読いただいても興味深いと思いますが、目次で皆さまが目下困っていらっしゃる/関心を寄せる項目を選んで、お読みいただければと思います。

事例の概要 / レシピ

各項目で扱っていただいた、執筆者の代表的な認知症の問題 → ケア・対応の経験について、その概要を簡潔に記載いただいている。どのような問題に、どのように対応したのか、その大筋を確認いただけます。興味関心のある内容の項目を、事例・レシピの詳細へと読み進めていただければと思います。

① 事例の詳細

上記事例の詳述です。認知症の主な問題に派生する多岐にわたる問題点や、認知症事例の奥深さ・幅広さを感じてください。

② レシピ詳細

上記ケア・対応（レシピ）の詳述です。レシピごとに記述いただいており、その結果どうなったということまで、文献的考察と経験的考察を併せて記載いただいている。

 **ここがミソ!**では、著者がこの経験から学んだ/感じたケア・対応のコツ・キーポイントについて、一言で記載していただいているので、ぜひ読んでみてください。

③こんなチームで一緒につくりました

経験した事例などで医師以外にどのようなメンバーの協力を得て、あるいはどのような立場の方がどのように機能して、レシピが完成されたのかを記述いただいています。認知症ケアにおいてのチームビルディングに参照いただけます。

④特にうまくできた工程

⑤失敗しちゃった/こうすればもっとうまくなる工程

経験した事例などで著者が特にうまくケア・対応できたなどを感じている/あるいは逆に失敗した・不足していたなどと反省しているポイントについて記載いただいている。事例全体の成功のカギにつながる要点を学びとつていただけます。

■認知症ケアの極意

著者の皆さまから、読者の皆さまにお勧めしたい認知症ケアのキーポイントについて、簡潔に述べていただきました。紡ぎ出された教訓は、きっと皆さまの診療や活動に役立つことでしょう。



そのまま使える説明・決め台詞レシピ！

この項目で想定されるシチュエーションにおいて、患者さんやご家族、メディカルスタッフ、地域の住民などの登場人物に、ターニングポイントをもたらした発言を、そのまま使っていたいだけの決まり台詞として記載いただきました。絶妙なニュアンスの台詞に、読者の皆さんもしづれてください！

まとめに代えて～事例の振り返り

著者に事例の経験と執筆を振り返っていただき、事例や認知症（ケア）自体への熱い思いを綴っていただきました。総合診療医の認知症ケアのあり方や、総合診療そのもののあり方を感じていただけるでしょう。

●文献

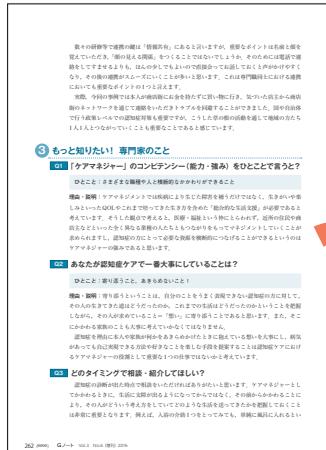
引用文献のみならず、参考になると著者が考える文献についても、コメント付きで紹介いただいている。

●プロフィール

ケアの現場や著者の人柄が垣間見えるプロフィールです。

4章 専門家のレシピを見てみよう！

第4章では、第1～3章とうって変わって、総合診療医ではなく、多方面にわたる専門家の先生方に、それぞれの得意とされている認知症ケアについて記載いただきました。専門家ならではの深いエッセンスや、総合診療医とあれども知っておくと診療に深みが出来るエピソードが満載です。読み物として通読いただけでも、興味のある専門家からお読みいただけて、認知症ケアの新しい世界が広がることでしょう。



事例の概要 / レシピ

- ① 事例の詳細
- ② レシピ詳細
- 文献
- プロフィール

これらは第1～3章に準じますが、専門家によってさまざまに展開する認知症ケアの幅広さを感じてください。

③ もっと知りたい！ 専門家のこと

専門家の立場で感じていただいている、認知症ケアにおける自分のコンピテンシー、最も大事にしている要素、紹介・相談のタイミングなどを詳しく解説してもらいました。認知症ケアで難しいと考えることもあるが、専門家がどのようにしてそれを克服していくのか、その人のために何ができるかなど、多くの実践的なアドバイスをもらいました。また、認知症ケアにおける専門家の立場や専門性を理解する上でも役立つ内容でした。認知症の対応は専門性をもつて行なうことが求められるが、そのためには専門性をもつて専門家と連携していくことが重要です。

本書はもちろん総合診療医の読者を想定して企画されたものですが、実際に集まった原稿を挿説していて、医師でなくとも認知症ケアにかかわるすべての方に非常に参考になる貴重なレシピ集であると痛感しています。ぜひ施設内外で幅広い用途で使っていただければと思います。